

令和3年度 県立水戸第三高等学校自己評価表

目指す学校像		三高プライドを持ち、未来の社会を担うことができる人財を育成する学校。 ※三高プライド…三高スタンダード(これからの時代を生きる人間として「身につけさせたい5つの力」:知力・知識力、思考力・探究力、協働力、コミュニケーション力、自己実現力)を身につけ、何事にも主体的に取り組み、他者と共生できるしなやかな心。								
昨年度の成果と課題		本年度の重点項目		重点目標		達成状況				
〇茨城大学、県立医療大学など国立大学に21名、法政大学、東京家政大学、武蔵野音楽大学など私立大学に296名、県立中央看護専門学校など国立専門学校に12名、警視庁、県事務など公務員に7名が合格した。今後も多様な進路希望を実現させるために、進路指導部と各学年が連携して生徒の自己実現に努める。また学校の活動を積極的に発信するなど広報活動の充実を図り、本校志願者数の増加を図る。 〇きめ細かな教科指導や進学指導に積極的に取り組むと同時に、「文武両道」のもと、部活動加入者を増やし、豊かな心と健やかな身体の育成、自主及び自立の精神の涵養に努める。 〇新教育課程のモデル作成と「総合的な探究の時間」の運用を開始し、PDCAサイクルを機能させ教育活動の改善を図った。それらを踏まえ、新教育課程を確立し、カリキュラムマネジメントにより新学習指導要領の理念の具現化を図る。		・自ら学び、自ら考え、自ら探究する力を育む指導。 ・大学や企業等との連携を深め、広い視野で考える力を育む指導。		・主体的に学習する態度の育成を目指し、自ら学ぶ姿勢を育む指導に努める。 ・校内研修を充実させ、授業改善の意識を高揚し授業力向上を図る。 ・生徒の進路希望を実現できるカリキュラムの検討を進める。		B				
		・高い志の育成を図り主体的に自己の進路目標を設定させる指導。 ・生徒が設定した進路目標を実現する指導。		・生徒の学力に応じたきめ細かい進学課外の充実を図ることで、学習意欲を喚起し進路実現に結びつける。 ・進路だよりを定期的に発行し、外部情報や本校の取り組みを知らせることにより、進路意識の高揚を図る。 ・インターンシップや近隣教育機関と交流する機会を数多く設けるなど、地域との関わりを深めることにより望ましい職業観・勤労観を育む。						
		・主体的に良識ある行動ができる生徒を育む指導 ・社会人として守るべき基本的なルールやマナーについての指導を全教職員が継続しての実施を図る。		・基本的な生活習慣を確立させる。 ・校則・ルールの意義を理解して、主体的に良識ある行動及び落ち着いた生活環境づくりができる生徒を育成するため、分掌・学年及び生徒会等と協働し、全教職員による継続した指導・支援を図る。内規・校則・ルール、指導手順等の整備・見直しを行い、新任者でも指導しやすい環境を整える。						
		・限られた時間の中で特別活動や部活動に主体的に取り組ませる指導 ・特別活動や部活動を充実させ、個性を尊重し互いを高め合う集団づくり。		・文武両道の実現に向け、学習と部活動の両立及び進路実現を可能にする環境の構築を図る。 ・部活動に主体的に取り組む姿勢を育み、各大会での上位入賞を目指す。 ・生徒が特別活動の意義を理解し、ホームルーム、生徒会活動、学校行事等の活性化に努める。特別活動においてキャリア・パスポートを活用する。						
		・募集、広報活動の推進と充実。 ・学校教育活動への理解と協力促進。 ・教職員の働き方改革の推進		・学校ホームページや学校案内等を活用し、本校の特色、取り組み、成果等最新の学校情報を生徒、保護者、県民に積極的にかつ適切に発信し、募集・広報活動を活性化する。 ・学校説明会、学校公開、体験レッスン等を活用し、中学生、保護者、県民に教育活動全般を説明するとともに、特色ある専門学科に特化した情報発信にも努め、専門教育への理解の深化を図る。 ・教育委員会ホームページの活用や報道機関への記事提供を積極的に行う。 ・学年通信や学級通信などを積極的に発行し、学校生活の状況を保護者に伝え、本校の教育活動への理解・協力を促す。 ・教員の働き方改革に向け意識改革並びに削減可能な業務の検討等を行い、6・10月において昨年度より平均月超過勤務時間3時間以上の削減を目指す。						
三つの方針		具体的目標				評価	総合評価	次年度への主な課題		
三つの方針 (スクール・ポリシー)		「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)		・三高プライドを持ち、未来の社会を担うことができる人財の育成。 ※「三高プライド」とは、三高スタンダードを身につけ、何事にも主体的に取り組み、他者と共生できるしなやかな心のこと。 ※「三高スタンダード」とは、これからの時代を生きる人間として「身につけさせたい5つの力」のこと。 ①知力・知識力 ②思考力・探究力 ③協働力 ④コミュニケーション力 ⑤自己実現力		B	B	・「三高スタンダード」を育成するための組織的継続的な教育活動を、どのように展開するか。		
		「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)		・カリキュラム・マネジメントの充実。 ・創意工夫を生かした特色ある教育活動の推進。 ・学科の特徴を生かしたカリキュラム開発。		A		・令和4年度新教育課程の円滑な運用とPDCAサイクルの確立を目指す。		
		「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)		・学習活動、学校行事、生徒会活動や部活動などに、他者と協働して主体的に取り組む生徒。 ・自分の進路実現を目指し、継続的に努力する生徒。 ・学科の特性に応じた教育活動に対して、積極的に取り組む生徒。		B		・志願者増加に向けて、本校のアドミッション・ポリシーを含めた広報活動の展開。		
具体的目標		具体的方策				評価	総合評価	次年度への主な課題		
教科指導		1年については基礎学力の定着をはかり、2、3年は、基礎学力をさらに発展させ、大学入試等自ら定めた目標を実現できる応用力・実践力を身につけさせる。		・基礎学力の定着を図るために週末課題等を実施し、家庭学習時間の確保を図る。 ・積極的な授業の取り組み、疑問点の解消、将来の目標を見据えた学習計画の実践をすすめる。 ・各教科・科目で身につけた基礎的な知識・技能を教科横断的に活用する学びをとおして、思考力・探究力の向上を図る。 ・曜日バランスを考慮し、授業時間を確保する。 ・インタラクティブフォーラムやブリティッシュヒルズでの英語研修など国際理解に関する活動に積極的に参加する。		A B B A B	B	・生徒が主体的に学ぶ姿勢を育成し、家庭学習の充実を図る。 ・効果的なICTの活用と探究的な学びを促す授業展開の工夫。 ・観点別評価の本格実施にあたり、授業と評価の一体化を図る。		
		自ら目標を立て、目標を達成するために互いに努力し高め合う生徒を育成する。		・英検・家庭技術検定等を実施し、合格者数を伸ばす。 ・声楽・ピアノ・管楽器・日本音楽の各公開講座を実施し、生徒の技術向上と、向上心の育成を図る。 ・ICT機器を積極的に活用した学びの場を設け、生徒自らが考える(学ぶ)活動を展開する。		A A B				
		確かな学力の定着を図る。		・生徒の学力把握と教材研究に基づいた、対話的・主体的な学習を展開するよう努める。 ・小テスト等を利用し、共通テストに繋がる基礎学力の定着を図る。 ・理解の不十分な生徒には個別指導を実施する。		B A B				
		家庭学習習慣の定着を図る。		・予習・復習に積極的に取り組ませる。 ・週末課題を利用し家庭学習の習慣をつけさせる。		B B				
		生徒の進路希望に応じた学力向上を図るとともに、教員の授業力向上に努める。		・生徒の進路希望に応じた学力向上を図るとともに、ICT機器の活用習熟に努め、教員の授業力向上を図る。 ・必要に応じて課外授業を実施し、生徒の進路実現に向けた学力の向上を図る。 ・授業において「話すこと・聞くこと」および「書くこと」の機会をより充実させて、主体的に表現できる力を養う。		B B B				
教科	国語	生徒の進路の希望に対応できる学力の充実に努める。		・副教材、プリント学習による積極的効果的な授業を展開、生徒の主体的な学習を促し学習の習慣化を図る。 ・長期休業中だけでなく、早朝や休日課外等で基礎学力の充実とともに問題演習に取り組む。 ・新教育課程に対応した授業内容の検討を進める。		A B B	B	・ICT機器の活用と活用事例の共有。 ・新学習指導要領、観点別評価に対応した評価方法の構築。 ・探究的な学びや複数資料の読解など、新たな学びから共通テストに向けての学力をどのように育むか。		
		生徒の社会認識を深めさせるために、授業の研究と実践に努める。		・新聞、映像教材、インターネット等を積極的に活用するなど授業の改善と授業力向上に努める。 ・発問等の工夫により、興味関心を喚起する授業に努める。		B A				
		歴史・社会・文化に関する興味や認識を高めるための工夫する。		・修学旅行の事前学習としては、日本史・地理・現代社会等の授業において沖縄についての学習を行う。		B				
	地歴公民	生徒の進路の希望に対応できる学力の充実に努める。		・ICT機器を積極的に活用し、小テスト等を通して生徒の理解度を定期的に把握する。 ・理解度の不足する生徒には再指導を実施する。		A B			B	・ICT機器の有効活用、積極的活用。 ・模試データの教科内分析の実施。
		生徒の社会認識を深めさせるために、授業の研究と実践に努める。		・課題を定期的に点検し、家庭学習の習慣をつける。		B A				
		歴史・社会・文化に関する興味や認識を高めるための工夫する。		・課題を定期的に点検し、家庭学習の習慣をつける。		A				
		基礎学力があり、数学に対して興味関心の高い生徒に対しては、さらに理解度を高める指導をする。		・課外を実施し、興味関心を持続させ高いレベルまで到達させる。		A				

	理 科		自然科学に対する興味関心を喚起する。	・実験、資料等の活用により授業を展開し、健全な自然観を持たせる。	B	B	「主体的・対話的で深い学び」について、授業展開の研究を継続する。 ・実験については、状況に応じて適宜演示実験に切り替えるなど工夫して実施する。
			思考力・判断力・表現力をはぐくむ授業を展開する。	・校内及び校外研修を充実させ、授業の改善と授業力向上を図る。	B		
			主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成する。	・校内研修を充実させ、ICTの効果的な活用を含め授業の改善と授業力向上を図る。	A		
			学力の向上に努め、生徒の進路希望実現を図る。	・探究の流れを意識した実験を行う。	B		
				・グループワークをととし、協同の姿勢を育む。	A		
	保健 体育		体力の向上（身体能力）を図る。	・演習問題の精選及び課外の実施により、大学受験等に相当する実力養成に努める。	B	B	・体力テストの結果や副教材を活用し、体力の向上に努める。 ・ICT機器の効果的な活用を検討する。
			生涯スポーツにつながる、知識や運動の習慣を身に付ける。	・生徒の進路希望を実現できる教育課程の検討を行う。	B		
			心身の健康の保持増進を図る。	・基礎体力の増進のために体力テストの結果等を利用することで、主体的に授業に臨ませる。	B		
			音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽の多様性についての理解を深める。	・副教材を利用し、各種目のルールや特性等の理解を深め、スポーツのあり方を考えさせ、実践する態度を養う。	B		
			自己のイメージをもち、創意工夫して表現しようとする意欲を高め、そのために必要な技能の習得を目指す。	・定期調査を実施し、※ヘルスプロモーションの理念を理解させる。（※自らの健康をコントロールし改善できるようにする活動）	A		
教 科	芸 術	音 楽	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽の多様性についての理解を深める。	・ICT機器を活用し、適切な題材・教材選択を図り、より積極的に取り組もうとする意欲を高め、魅力ある授業実践を目指す。	B	B	・ICT機器を活用し、魅力ある授業実践を目指す。
			自己のイメージをもち、創意工夫して表現しようとする意欲を高め、そのために必要な技能の習得を目指す。	・演奏発表の場や対話的な学びを通じて、互いの演奏や音楽表現に対する考え方について理解尊重し、個性豊かな創意工夫ある表現を目指す。	B		
			生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていくとする態度を養う。	・アンサンブル活動の充実などを通じ、音楽活動の喜びを味わい、感性を高め、日々の生活をより豊かなものとする。	A		
		美 術	造形的な視点を豊かにするための知識と、創造的に表す技能を身に付けさせる。	・基礎演習を効果的にを行い、〔共通事項〕をもとに既習の知識や技能を生かして発展的に学びが深められるよう計画、指導する。	A	B	・観点別評価の実施とICTのさらなる活用。
			表現における発想や構想と、鑑賞における見方や感じ方を深めさせる。	・表現と鑑賞の関連を図り、対話的な学びを通して発想や構想に関する資質・能力を高める指導の工夫を行う。	B		
			主体的に取り組む態度や生涯にわたり美術を愛好する心情、豊かな感性を育む。	・生徒のよさを多様な方法で評価し、主体的な表現への意欲を高めるとともに、学びの意義を実感させる活動の充実を図る。	B		
		書 道		・用具用材に対する意識づけを行う。	B	B	・ICT機器の活用を進める。
				・全体指導及び個別指導においてきめ細かな指導を行う。	B		
				・作品整理ノートを十分に活用する。	B		
				・作品提出の徹底を図る。	B		
				・積極的に展覧会を鑑賞し情操を養う。	B		
				・感性を豊かにするためにそれぞれ美術、書道分野だけでなく美術的内容を取り入れて興味を持たせる。	B		
				・作品を大切にすることを養う。	B		
	英 語		基礎学力の向上定着を図るため、授業力向上を目指す。	・小テスト、週末課題の実施により、学習の理解度を把握する。	B	B	・基礎力向上の徹底と生徒との教科面談の実施。 ・ICTの活用と、パフォーマンステストの実施とその評価の方法の研究。 ・ICTを使った4技能の育成方法の研究。
				・学習内容の定着の為に質問の時間を設け、プリント等教材の工夫改善を図る。	B		
				・ICTの活用により、4技能を効率的に向上させる。	B		
				・テキストや副読本を読むことにより、文化の違いを理解させる。	B		
				・ALTの先生の授業等を通じて、習慣の違いを学ぶ。	B		
			外国語の学習を通じて自国の文化等に対する理解を深める。	・スピーチコンテストへの参加を積極的に促し、英語を話し理解しようとする態度を養成する。	C		
				・各種検定試験(英検、GTEC等)への参加を促し、各学年ごとの達成目標を設け指導する。	B		
				・ICTを活用した発表や活動を積極的におこなえるよう、研究・実践する。	B		
				・大学入試におけるリスニングテストへの対応のために授業の中にリスニング教材を位置付ける。	B		
					B		
教 務	家 庭		家庭生活を主体的に営む態度を育てる。	・生活に必要な知識と技術を習得させるための教材を精選し、授業に生かす。	B	B	・新教育課程に向けた授業内容と評価についての再検討。 ・思考力・判断力・表現力を高める教材を開発し、知識の定着や学力の向上を図る。 ・ICTを活用した授業展開の工夫。
				・「一日家事体験」や「ホームプロジェクト」等の実践活動を行う。	A		
			課題解決力向上のためのコミュニケーション力・プレゼンテーション力を育成する。	・実験実習を数多く導入し、まとめとしてのレポート提出をさせる。また、発表会を行う。	B		
				・授業や学校行事等の学校生活全般において数多くの体験学習を行う。	B		
			多様な進路希望の実現を図る。	・将来の進路につながる学習を行う。	A		
				・家政分野の情報を提供する。	A		
	情 報		生徒の安全を確保した実験・実習を実施する。	・施設・用具等の徹底管理を行い、危険物排除に加え衛生面も含めた安全な実習環境を整える。	A	B	・新しく導入されるプログラミングの授業の組み立てを検討する。
			情報活用の実践力を身につける。	・ワード、表計算、プレゼンテーションソフトの基本操作を身につけるとともに、ICT機器の活用推進を支援する。	A		
				・課題解決に向けて研究した成果について、その制作物を発表する機会を設け、実践的な活用能力を育てる。	B		
			情報社会の課題を考える。	・インターネットにおける問題となった具体的事例を学び、問題が起きた時の解決方法や、犯罪に巻き込まれないための知識を学ぶ。	B		
				・課題学習を通して、自分の考えや意見をまとめ、各自でプレゼンテーション制作を行い、情報発信者としての必要なスキルを学ぶ。	A		
			情報社会に主体的に参画する態度を育てる。	・情報で暮らしか変わることを前向きに捉え、主体的に取り組む姿勢を育てる。	B		
	教 務		校内研修を充実させ、授業力の向上に努める。	・ICT機器を活用した授業をはじめとした校内研修を充実させ、授業の改善と授業力向上を図る。	B	B	・ICT機器を用いた授業力改善の継続を図る。 ・メディアを取り入れた広報活動の展開・強化を図る。 ・学校や開やHPをととして、保護者や地域住民等への情報発信を強化する。
			各部、各学年及び各教科が効率的に機能するよう全職員の共通理解を図る。	・教師の指導改善及び生徒の学習改善につながる学習評価を設定し、授業力改善を図る。	B		
				・各学年・部・学科の意見・要望を集約しながら資料を共有し、校務の「みえる化」を図る。	B		
			教育課程を円滑に推進する。	・新学習指導要領の対応とR4年度から年次進行で変わる教育課程への円滑な移行となるよう周知徹底の期間とする。	A		
				・新たに導入する「3時間のカセット方式」が滞りなく実施できるよう最善を尽くす。	A		
			広報活動の推進と充実を図る。	・HP等を活用し、本校の教育活動の取り組み状況や成果及び特色等を積極的に情報発信する。	B		
特別活動				・学校公開等を通し、本校の教育活動への取り組みを保護者や地域住民へ周知する。	B	B	・コロナ禍により、行事が思うとおりに行っていないため、特別活動部の取り組みを根本的に考え直す必要がある。 ・ICTの活用方法について、個人での研究にとどまっておらず、研修等で広めていかなければならない。 ・学習と課外活動の両立を図り、課外活動に対し、より深い関わりを持つ必要がある。
			生徒が主体となってホームルーム活動や生徒会活動、学校行事を行う。	・自己や集団の課題を見いだし、合意形成や意思決定する場をLHRで設ける。	B		
				・生徒会本部役員や各種委員会が学校行事運営の中心となるよう支援する。	B		
				・クラスマッチを実施し、運動に親しむ態度や集団への帰属意識を育む。	C		
				・芸術鑑賞会や校内文化発表会を実施し、文化や芸術を親しむ姿勢や創造性、表現力を育む。	C		
				・特別活動における生徒の主体的活動に資するICTの活用方法を研究する。	C		
				・特色選抜入試を実施している部活動を中心に、上位大会への進出を目指す。	B		
			部活動を活性化し、学習との両立を目指す。	・運動部、文化部とともに部活動入部加入率が40%以上になるように生徒への部活動への積極的な参加を促す。	B		
				・部活動の活動方針や内規に記載されている活動時間を守るよう、練習方法の工夫や効率化を図る。	B		
					B		

生徒指導	生徒が三高生としてのプライドを持ち、自主的にルールを守るよう、自己形成を図る。	・高校生としての基本的生活習慣、規範意識の育成を授業・HRのみならず、学校の諸活動全体の中で自主的に培える援助を行う。	B	B	・現状に見合った校則や服装規定の見直し。 ・生徒のマナーや規範意識を向上させるため、継続して立附指導等を行っていく。
	教職員間の共通理解を深め、共通の指導体制を構築する。	・教室環境の整備・改善を協力して行うことにより、落ち着いた環境の中で望ましい人間関係の構築をさせていく。	B		
		・年度始めにおける内規・校則等の周知を図るとともに、指導基準・手順等の見直しを必要に応じて行う。	B		
		・生徒の実態把握(被害調査、アルバイト許可、自転車交通関係、携帯電話使用等)を担当・学年と連携して行い、問題行動の防止に努める。	B		
	保護者や外部関係機関との連携による協力関係を構築し、学校以外の視点を指導に活かす。	・PTA総会や各学年PTA集会等において、積極的に生徒の実情の報告、意見交換を行い、大人や社会の視点からの指導を行う協力を呼びかける。 ・水戸警察署との連携により、生徒の何気ない身なり・行動でも不審者等の誘因になっていることを知らせ、自己の行動を改めるきっかけにさせる。	B		
進路指導	生徒の進路希望の実現を図る。	・生徒の進路希望に応じ休日課外・平常課外を計画、実施し、生徒の学力養成をはかる。	A	B	・生徒の進路志望実現のため、早期に進路目標を設定させ、学習習慣を確立させることが急務である。共通理解のもと学年と連携しながら生徒の進路支援や情報の提供など進めていく必要がある。 ・コロナ禍で校外での社会体験をどう進めていくが課題である。
		・生徒の進路指導室利用を促進し、進路相談の充実を図る。	B		
		・学年・教科との緊密な連携により、生徒の進路希望に応じた推薦入試対策や小論文指導などを検討、調整、実施する。	B		
	生徒の進路に対する意識の高揚を図る。	・各学年に応じた進路行事(大学見学会、大学模擬授業、進路講演会)を実施し、生徒の意識を高める。	B		
		・インターンシップ(看護師体験など)や様々な社会体験を促し、進路に対する意識を高める。	C		
		・生徒面談等で分析ソフトやインターネット等を積極的に活用し、効果的かつ効率的な進路指導を図る。	B		
	実態に応じた適切な進路情報を保護者に提供する。	・定期的な進路希望調査を実施し、生徒の実態把握に努める。	A		
		・進路だよりを通して、進路等における情報等を保護者に提供する。	B		
		・進路の手引きを作成し、その効果的な活用を進める。	B		
保健厚生	保健管理指導を徹底し、健やかな心身と生きる力を育成する。	・けがの防止に努め、安全を最優先して生活できるように配慮する。 ・各種講話、「ほけんだより」等による健康管理予防の啓発に努め、自分の体調について自己管理させる。	A A	A	・長寿命化工事できれいになった校舎(廊下・トイレ等)の清掃方法、及び道具の補充の検討が必要ではないか。
	環境整備に努め、また、防火管理を徹底する。	・校内美化に努め、清掃活動の一層の徹底を図る。 ・火災、震災、及びその他の災害への対策を、外部機関とも連携して講じていく。	B B		
	教育相談を有効に活用し、学校不適応生徒に適切に対応する。	・スクールカウンセラーや学年・保護者との連携をコーディネートし、生徒の心的問題の解消を支援していく。	A		
	進路希望が実現できるように奨学金等で支援する。	・様々な奨学金について周知し、必要な生徒に有効利用してもらう。	A		
図書	図書館の利用を促進し、書籍の管理につとめる。	・新着図書案内を定期的に発行し、本の利用を促進する。	A	B	・放送室の利用の適正化を呼びかける。
		・小論文推薦図書資料を職員・生徒に配付し、小論文コーナーの本の利用を促進する。	A		
		・蔵書点検を行い、蔵書・各種資料の整理に努める。	A		
		・各教科の専門的意見を取り入れ、蔵書の内容の充実を図る。	B		
	館内環境を整え、快適な読書空間と学習の場を提供する。	・館内を常時清潔に保ち、読書や学習する環境を整える。 ・朝自習・居残り学習のために開館し、生徒に継続的な学習の習慣を身につけさせる。	A A		
	図書委員会の活性化を図る。	・カウンター当番・図書館便り・校外の研修会等に積極的に参加させる。	A		
	放送委員会の活性化を図る。	・全校行事に伴う放送関係の仕事に積極的に関わらせる。	B		
情報	校内LAN(公務・生徒セグメント)の安全性を高めて、利用の促進を図る。	・セキュリティ対策を行い安全性を高める。 ・共有している情報機器や電子データの維持管理を行う。	A B	B	・教職員の情報セキュリティレベルを向上させ、事故の未然防止を図る。 ・「救助」の活用などによる効率化を図る一方で、弱い情報発信を補う。
	情報活用能力や情報モラルの向上を図る。	・生徒の個人情報漏洩等の事故防止を図る。	A		
		・研修会や動画等をおして、先生方の無線LANおよびGsuiteの有効的な活用を支援する。	A		
	広報活動に協力する。	・ウェブページ(ホームページ)を活用し、本校の教育活動の取り組み状況や成果等を積極的に情報発信する。	B		
	迅速・正確な成績処理に努める。	・統合型校務支援システムの更新、管理を確実に行い、生徒の進路実現の一助となる成績データ等の提供を行う。	A		
渉外	PTA総会の保護者の出席率を向上させる。	・日程や授業参観のあり方を工夫する。 ・PTA総会の内容を工夫し、効率的運営を図る。	B B	B	・コロナ禍で活動が制限される中での諸事業の運営の在り方を検討し、工夫しながら可能な限り保護者の参加できる場を設ける。
	保護者や地域との緊密な連携を図る。	・PTA各種委員会の活性化を図る。 ・保護者や地域の意見要望を検討し、広報誌などを通してその対応を図るとともに、理解、協力を得られるように努める。	B B		
		・時代が求める音楽科専門教育の内容の精選や、ICTの活用など、より充実した授業展開を目指す。	B		
音楽科	音楽に関する専門的で多様な内容についての理解を深め、表現意図を音楽で表すために必要な技能を身に付ける。	・卒業演奏会やボランティア演奏、各種コンクールへの積極的な参加など、様々な演奏披露の場を通じて、知識及び技能の習得と音楽文化を発展に寄与する態度を養う。	A	B	・生徒の意欲を喚起するよう、きめ細かな指導を行い、魅力ある専門科目の授業構築に努める。 ・中学校訪問や体験レッスン、進路相談会など、年間を通じて広報活動の拡充に努め、安定した志願者数の確保を目指す。
		・定期的に公開レッスンを実施し、意欲を高め、資質能力の向上を目指す。	A		
	将来音楽の様々な場面で活躍できる人材を育成するため、特色ある教育活動を展開し、志望する進路実現と安定した生徒募集を目指す。	・オペラ鑑賞会など鑑賞する機会を積極的に設け、音楽的な見方考え方を働かせ、より主体的に教育活動に取り組もうとする意欲を養う。 ・HPの充実や中学校訪問など広報活動を積極的に行い、音楽科の教育内容や生徒の活躍の様子について知ってもらい、安定した志願者数の確保につなげる。	A B		
		・他学科や学年との積極的な連携を図り、生徒の希望に対応したきめ細かい進路指導を行う。	B		
家政科	生徒の技術向上を図り、専門性の高い授業展開に努める。	・全国高等学校家庭科技術検定に取り組み、技術向上を図る。 ・各分野の専門家による出張授業を実施する。	A A	B	・新教育課程の円滑な運営と進学できる家政科の実現に向けた方策や計画の深化。 ・さらなる行事の充実、かつコロナ禍での行事の工夫。 ・校内を含め、学科についての理解をさらに深めてもらえるような情報発信の工夫。
	活躍の場を広げるために様々な活動への積極的な参加を図り、主体的な実践力育成に努める。	・生徒の企画・運営によるファッションショーを実施する。	A		
		・課題研究発表会や高等学校産業教育生徒交流会において日頃の成果を発表する。	A		
		・各種コンクール(被服関係・食物関係)への参加を促す。	A		
		・家庭クラブにおいて訪問活動やものづくり活動、さらに県連行事への参加を継続し活動の充実を図る。	B		
	進路指導の充実にも努める。	・茨城大学教育学部附属幼稚園との交流活動の充実を図る。	C		
		・家政分野のリーダー育成となり得る進路指導を計画的に実施する。 ・HPでの広報活動等により家政科周知を行い、関心の高い生徒募集を図る。	B B		

1学年	基本的な生活習慣を確立させ、集団生活のマナーを身につけさせる。	・挨拶を励行し、言葉遣いを身につけさせる。	B	B	・基本的な生活習慣を確立させ欠席、遅刻、早退の数を減らす。 ・進路意識を高め、学習時間を増加させ、基礎学力の向上に努める。 ・面談等を増やし生徒の様々な不安を軽減しつつ、進路の方向性を促す。
		・遅刻の防止、時間厳守を徹底する。	B		
		・机上の整理や清掃の徹底を行い、学習環境を整備する。	B		
	学習習慣を確立し、基礎学力を確実に身につける。	・授業開始時間の厳守、チャイムまでの着席を徹底する。	B		
		・予習復習を習慣化させ、家庭学習時間を確保させる。	B		
		・授業に対して主体的に取り組ませ、タブレットの活用を推進させる。	A		
	自己の可能性を探りながら卒業後の進路についての目的意識をもたせ、後悔しない文理選択および進路選択ができるように指導する。	・自己の適性を把握させ、進路に関する情報を収集させると共に、保護者に対しても情報発信して理解を求める。	B		
		・生徒との面談や保護者との面談を通して信頼関係を築き、適切な進路助言を行う。	B		
		・進路ガイダンスや進路講演会を実施し、積極的にオープンキャンパスや模擬授業等を体験させる。	B		
	特別活動への積極的な参加を促す。	・部活動・生徒会への積極的な参加を促す。	B		
2学年	『信頼される社会人』を目標に、安定した生活習慣を基本とし、中核学年としての自覚を持たせ、集団生活を営むためのマナーを向上させる。	・挨拶の励行を継続し、TPOに応じた言葉遣いと感謝に根ざした行動ができるよう生徒の自覚を高める。	B	B	・感謝の念を元に基本的な生活習慣を確立させ、最上級生として自律的な生活と学習に臨ませる。 ・進路意識を高め、学習時間を増加させ、基礎学力の充実と進路実現学力の伸長を図る。 ・編やかな面談や進路指導等により生徒の様々な不安を軽減しつつ、進路目標の実現を支える。
		・スマホやタブレット等の適切な利用を含めて、生活面での中だるみを防止する指導に努める。	B		
		・修学旅行も視野に入れながら、他者への思い遣りに基づいた集団行動が着実にできるよう、自己管理能力向上の指導に努める。	A		
	授業を中心とした予習・復習の学習習慣を確立し、基礎学力から探究的な学習につながる学力を確実に身につけさせる。	・授業開始時間の厳守、チャイムまでの着席を徹底する。	B		
		・総合的な探究の学習も含め、予習・復習を習慣化させ、家庭学習時間を確保させる。	B		
		・授業に対して対話的・主体的に取り組ませる。	B		
	社会や地域との関わりを意識しながら、自己の可能性や適性を最大限に生かす科目選択・進路選択ができるように指導する。	・面談等を通じ、自己の適性を把握し、進路に関する情報を収集させ、共通テストや採用試験に向けての対策を図る。	B		
		・進路講演会やガイダンス等を通して進路に関する情報を提供し、進路意識を高める指導をする。	A		
		・各種講習会や公開講座等への積極的な参加を促し、進路実現のためのキャリアアップにも挑戦させる。	B		
	特別活動への積極的な参加を促す。	・部活動や学校行事の中心的存在であることを自覚した活動を促す。	B		
3学年	社会に出てからも通用する言葉遣いや行動・身だしなみなどの自己管理能力を身につけさせ、規範意識を養う。	・挨拶や言葉遣い、身だしなみに注意を払わせる。	B	B	・働き方改革の観点から、進学指導業務が集中する時期（特に10月・11月）の担任業務の軽減のため、書類作成の効率化、面接指導の分散等をさらに進める必要がある。
		・社会生活におけるマナーの大切さを理解させ実践させる。	B		
		・すべてにおいて時間厳守を徹底させる。	A		
	進路実現のための学習習慣を確立させる。	・教材や指導法を工夫し、授業を大切にする姿勢をさらに強く持たせる。	B		
		・生徒一人一人が、各自の課題を自覚して自主学習できるようにする。	B		
		・課外授業や学校開放、放課後の居残り学習等に積極的に取り組ませ、進路目標に向けての努力を継続させる。	A		
	3年間の集大成としての進路実現を、一人一人に達成させる。	・面談を通し、一人一人の状況を確実に把握し、ICT等も活用し適切な情報提供する。	A		
		・課外授業を充実させる。	A		
		・進路実現を目指す集団としての雰囲気づくりに努める。	B		
	特別活動への積極的な参加を促し、人間的な成長を図る。	・面接指導や小論文指導などにおいて、全職員の協力を要請する。	A		
		・これまでの経験を生かして、リーダー・模範として活動する。	B		

評価基準:A(達成できた)、B(だいたい達成できた)、C(達成できなかった)の3段階